

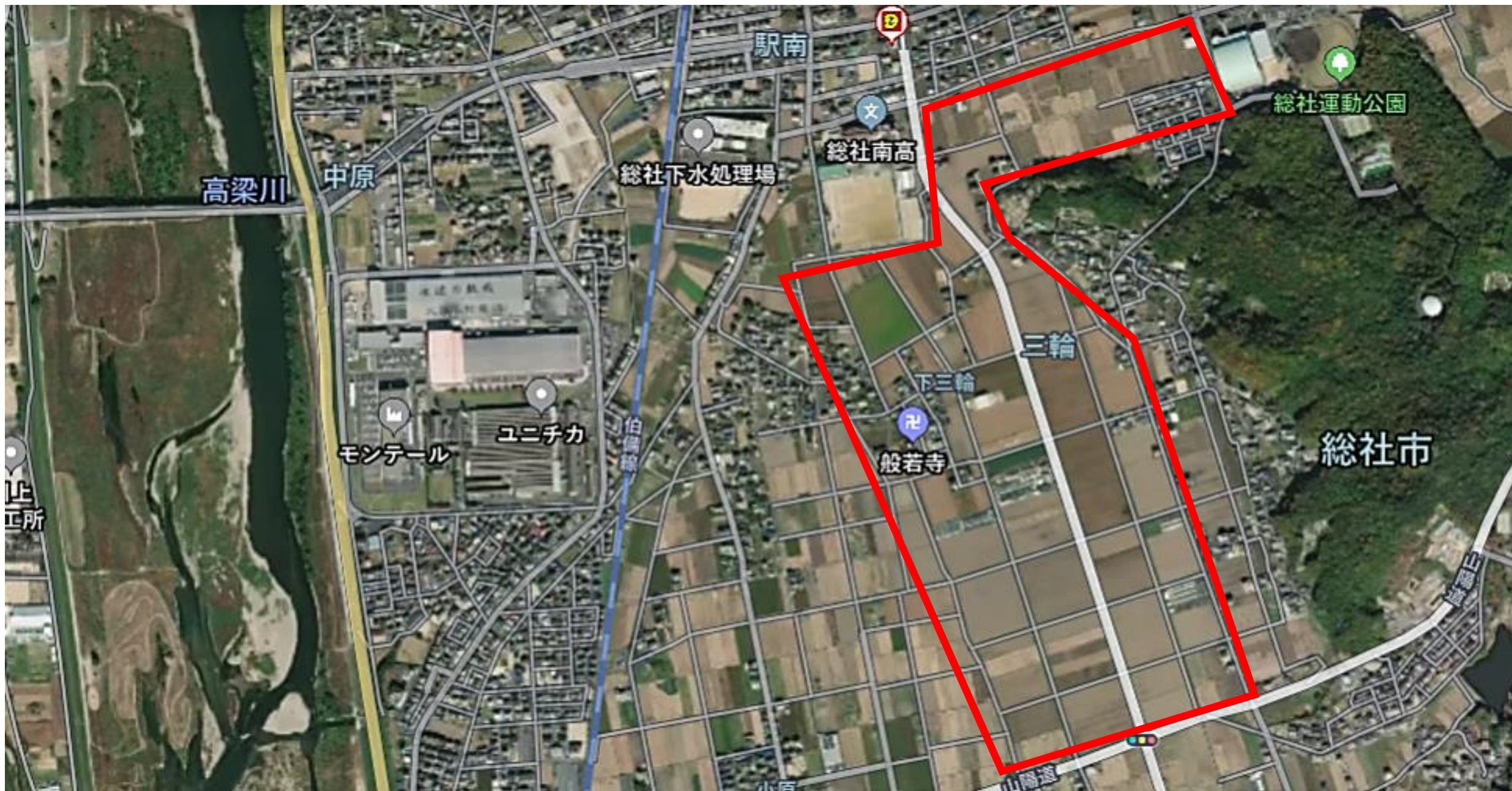
農事組合法人 三輪宮農組合 の取り組み



1 三輪地区の概要



- 総社市の南端に位置する近郊農業地帯である。
- 周辺は高梁川を擁する沖積平野で、平坦な水田が広がっている。
- 周辺の地域では住宅化が進行。
- 地区内及び周辺に南北及び東西に主要道路が整備されており、総社市内や倉敷市への通勤が便利なことから兼業化が著しく進んでいる。



三輪地区 組織化の経緯

整備前

- 狭小・未整備なほ場
- 農道に接していないほ場が多い（作業効率が悪い）
- 兼業化、農家の高齢化



水田の管理ができなくなる恐れがあるので、危機感を抱いた集落リーダーが昭和50年代からほ場整備の必要性を唱えてきた。

ほ場整備と組織化



昭和61年 ほ場整備着工（県営高度利用集積ほ場整備事業）

昭和62年 ほ場整備完了（大区画化 → 大型機械の必要性）

昭和62年7月 三輪地区営農推進組合結成（54戸）
・大型機械の共同利用
・転作作物の集団化

平成23年9月 農事組合法人三輪営農組合 設立（54戸）

2 (農) 三輪宮農組合の概要

- (1) 法人設立

平成23年 9 月 1 日

- (2) 組合員 50戸
- (3) 役 員 8 名
- (4) 経営面積 40ha
- (5) オペレーター 8 名



役員

- 代表理事 1 名
- 副代表理事 2 名
- 理事 部会長 5 名、監事 2 名

水稻
麦作
大豆
機械
総務（IT、会計）

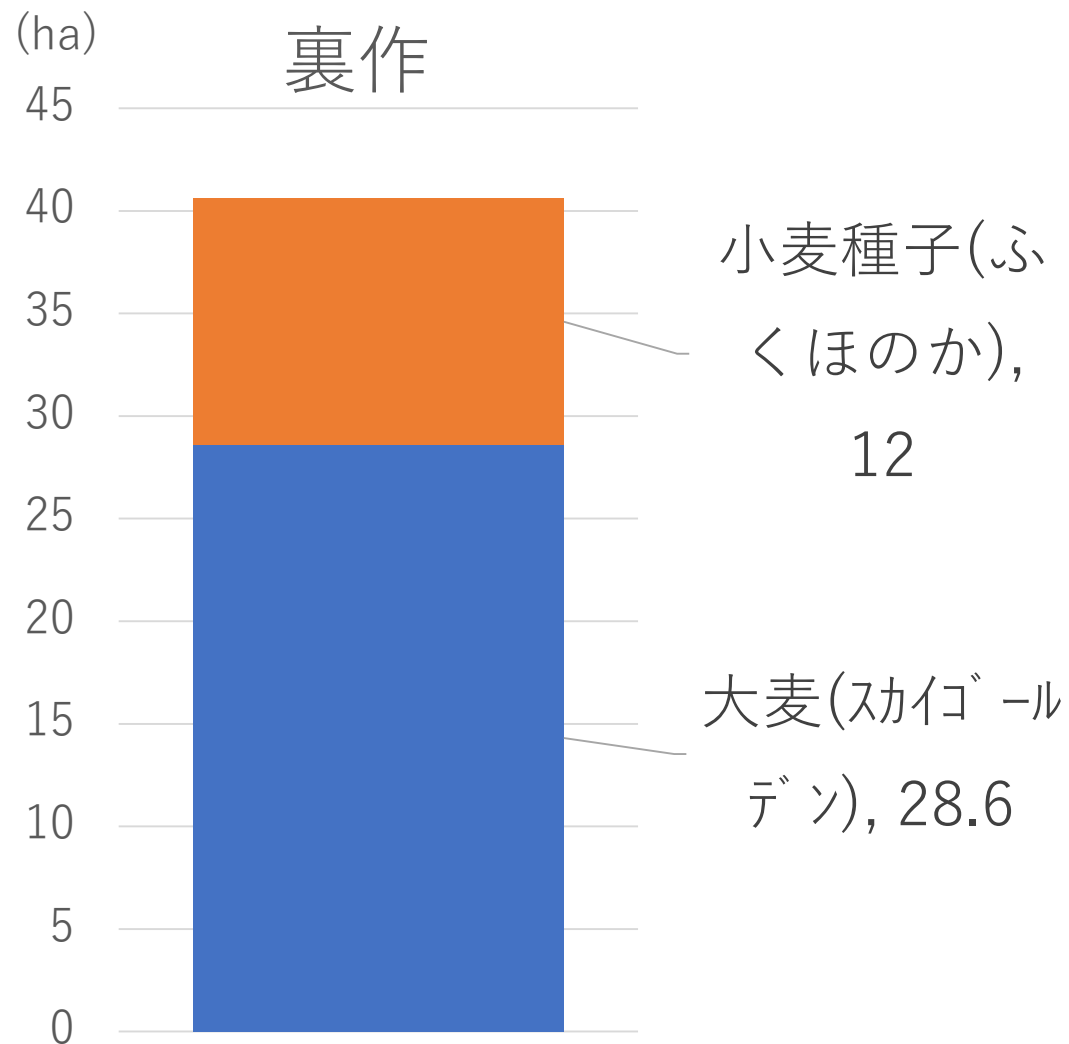
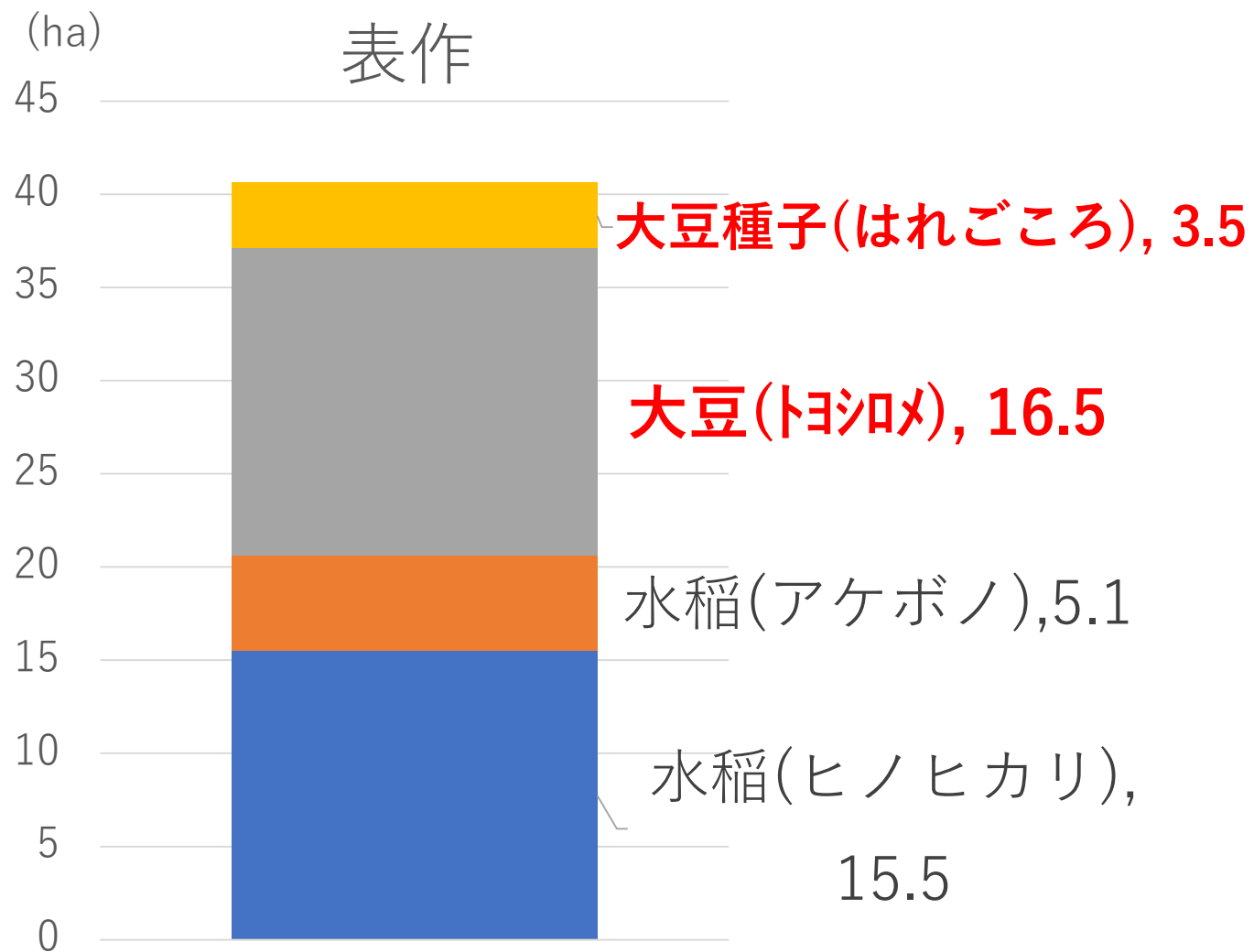


3 機械・施設

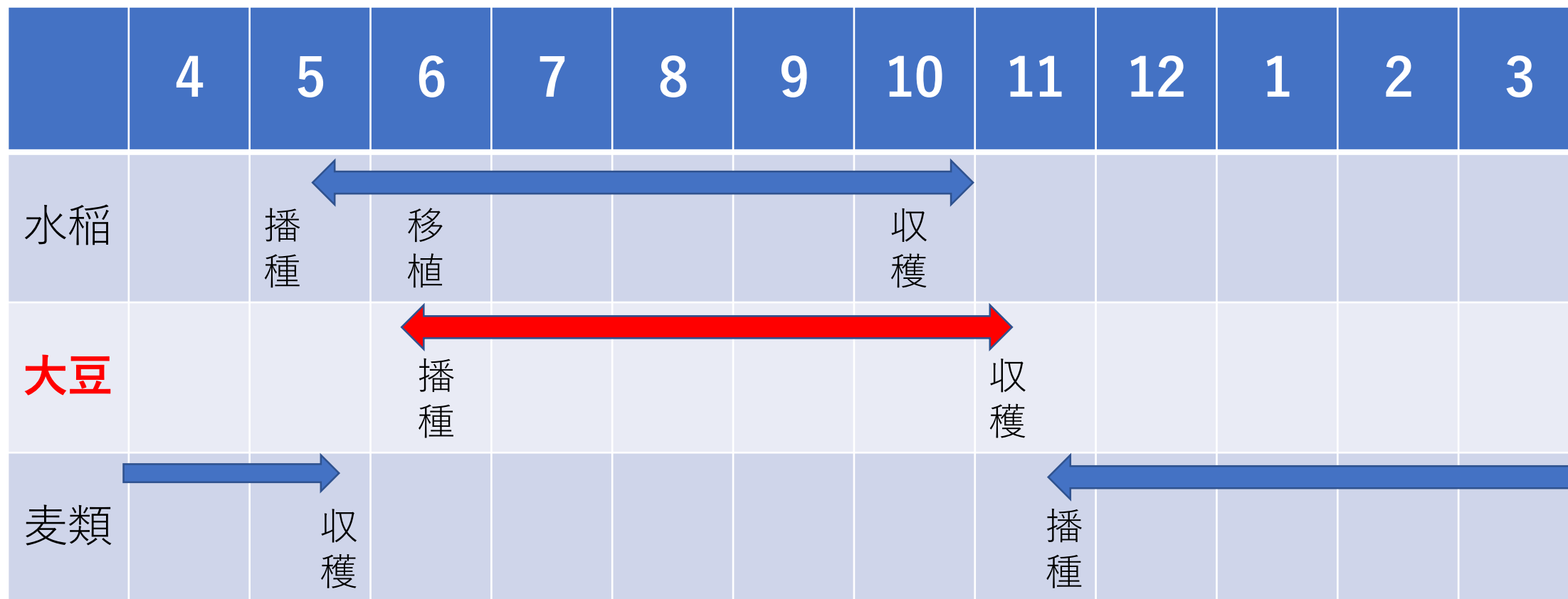
• トラクター	31、31、40、55、58、75ps	6 台	
• 田植機	5、8 条	2 台	
• 自脱型コンバイン	1 台	普通型コンバイン	2 台
• ブロードキャスター	2 台	乗用管理機	3 台
• マニアスプレッター	1 台	フォークリフト	2 台
• 乾燥機 50石	2 台	麦・大豆等播種機	6 条 1 台
• 高圧洗浄機	1 台	全自動粃播種機	1 台
• 粃摺機	1 台	農機具格納庫	126㎡
• ミーティングルーム	22㎡	倉庫	324㎡



4 栽培面積 R5 (ha)



5 作付体系



6 栽培の特徴

- 麦・大豆の二毛作（5年に一度復田）
- 麦・大豆は、播種前にサブソイラーによる暗渠を施工
- 降雨の影響を避けるため、前作収穫後、直ちにほ場準備
- 手取り除草等の労力のかかる作業も、ポイントとなる作業はこまめに行い、作物の高収量、高品質を維持
- 肥料コスト低減のため、麦類の肥料に鶏ふんを利用

施肥例：鶏ふん300kg+麦これ一発30～40kg

└→ **地力が向上し、後作の大豆にも有効**

7 収益向上のための取り組み

- 麦類、大豆ともに種子生産に取り組み、高品質安定生産を実現しており、生産物の売上高、水田関連交付金額とも高水準
- 団地化を徹底し、作業を効率化
- 主な管理は大型農機を使用しているが、機械では対応できない作業（異形株抜き取り、除草等）は、適期に一斉に手作業で実施
- 農薬・肥料の試験を行い、効果の高いものは積極的に導入

7 収益向上のための取り組み

- 定期的に土壌診断を行い、ほ場状況に合わせた施肥を実施
- 病害虫や雑草の適期防除に努める
- 機械更新は、計画的に行い、場合により他経営体との作業受委託や機械貸借を行う

10aあたり収量（R5）

作目	品種	収量 (kg/10a)
水 稲	ヒノヒカリ（主食用）	5 3 7
	アケボノ（飼料用）	6 0 2
白大豆	トヨシロメ	2 8 9
	はれごころ（種子用）	3 3 2
大 麦	スカイゴールデン	3 8 6
小 麦	ふくほのか	3 2 3